

宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2023年7月～9月期

目次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2023年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2023年7月～9月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 149企業

2. 調査対象期間

2023年7月～9月期を対象として、調査時点は2023年9月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業種	企業数
製造業	33
建設業	24
小売業	42
サービス業	50
合計	149

5. その他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2023年7月～9月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期より5.8ポイント改善し△22.1（前期△27.9）となった。産業別では、製造業が△33.4（前期△42.4）で9.0ポイントの改善、建設業は△20.9（前期△25.0）で4.1ポイントの改善、小売業は△38.1（前期△42.5）では4.4ポイント改善、サービス業でも△2.0（前期△8.0）と6.0ポイントの改善となり、全業種で改善傾向となった。

来期見通しでは、サービス業で悪化する一方、製造業、建設業、小売業では改善の見通しである。

表-1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 27.9	△ 22.1	△ 20.8
製造業	△ 42.4	△ 33.4	△ 33.3
建設業	△ 25.0	△ 20.9	△ 4.2
小売業	△ 42.5	△ 38.1	△ 30.9
サービス業	△ 8.0	△ 2.0	△ 12.0

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業が12.1%で前期比3.0ポイント増加、建設業は8.3%で前期比4.2ポイント減少、小売業でも11.9%で前期比0.6ポイント減少、サービス業では12.0%と前期比横ばいであった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業、建設業で増加、小売業、サービス業で減少する見通しとなっている。

表-2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	9.1	12.1	18.2
建設業	12.5	8.3	12.5
小売業	12.5	11.9	4.8
サービス業	12.0	12.0	8.0

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2023年9月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2023年6月調査）と比較し、「製造業がマイナス5で前期比横ばい、非製造業はプラス12で前期比1ポイント上昇。供給制約の緩和に伴い自動車の挽回生産が進んでいる中、世界的な財需要の低迷や中国経済の回復鈍化が輸出減少を通じて景況感改善の足かせとする一方、国内行楽やインバウンド需要の堅調な回復を背景に、対面型サービス業を中心に景況感は良好な見通し」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では製造業、建設業、小売業で改善となり、サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業、サービス業で全国・東北以下、建設業で全国以下・東北以上、小売業では全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 1.5	△ 5.0	△ 7.5	△ 8.5	△ 21.2	△ 15.2
建 設 業	△ 11.6	△ 14.0	△ 28.1	△ 21.5	△ 26.1	△ 16.7
小 売 業	△ 10.5	△ 12.6	△ 13.8	△ 17.5	△ 7.5	2.4
サービス業	14.5	14.0	11.7	18.3	16.0	10.0

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、前期との比較では製造業、小売業、サービス業で改善となり、建設業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業、サービス業では全国・東北以下、建設業、小売業で全国以下・東北以上であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 20.3	△ 21.9	△ 30.4	△ 29.8	△ 36.4	△ 33.3
建 設 業	△ 25.8	△ 26.9	△ 34.6	△ 40.3	△ 16.6	△ 33.3
小 売 業	△ 32.6	△ 35.0	△ 43.7	△ 43.4	△ 50.0	△ 38.1
サービス業	△ 21.8	△ 21.5	△ 29.7	△ 19.4	△ 32.7	△ 28.0

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2023年10月～12月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業が△24.2ポイント、小売業で△7.1ポイント、サービス業で△2.0ポイントの悪化とする一方、建設業で12.6ポイントの改善見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で△3.0ポイント、小売業で△2.3ポイントの悪化となり、建設業で16.6ポイント、サービス業で4.0ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国・宮城で悪化、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通し。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国・宮城で改善の見通し。小売業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通し。サービス業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 5.0	△ 6.4	△ 15.2	△ 39.4
建設業	△ 14.0	△ 14.5	△ 16.7	△ 4.1
小売業	△ 12.6	△ 14.7	2.4	△ 4.7
サービス業	14.0	5.3	10.0	8.0

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 21.9	△ 19.4	△ 33.3	△ 36.3
建設業	△ 26.9	△ 23.8	△ 33.3	△ 16.7
小売業	△ 35.0	△ 30.9	△ 38.1	△ 40.4
サービス業	△ 21.5	△ 19.6	△ 28.0	△ 24.0

2. 県下産業別の景況

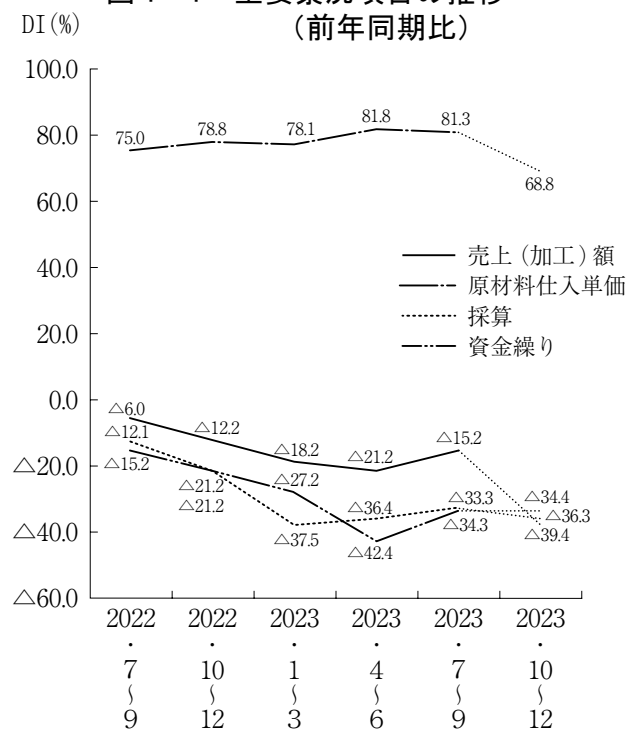
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△15.2（前期△21.2）となり前期比6.0ポイント改善、採算D Iでは今期△33.3（前期△36.4）で同3.1ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△34.3（前期△42.4）で同8.1ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期81.3（前期81.8）と0.5ポイント減少した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



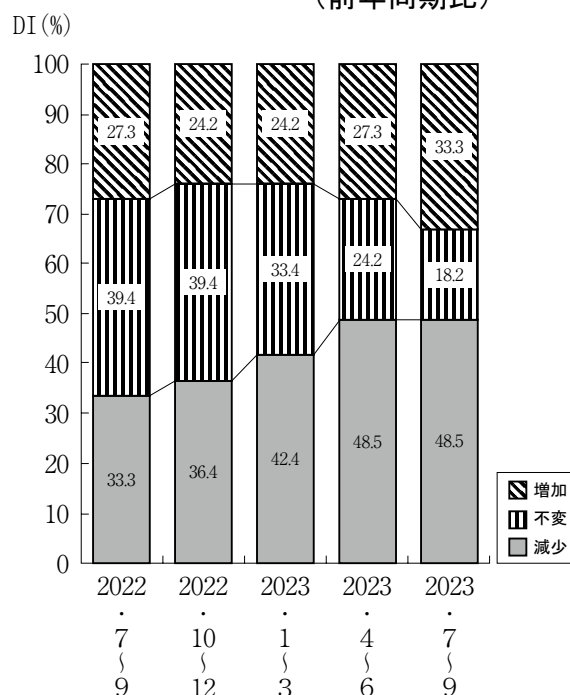
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の33.3%（前期27.3%）で6.0ポイントの増加、「減少」と回答した企業は48.5%（前期48.5%）で横ばい。

その結果、売上（加工）額D Iは△15.2（前期△21.2）となり前期比6.0ポイントの改善となった。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

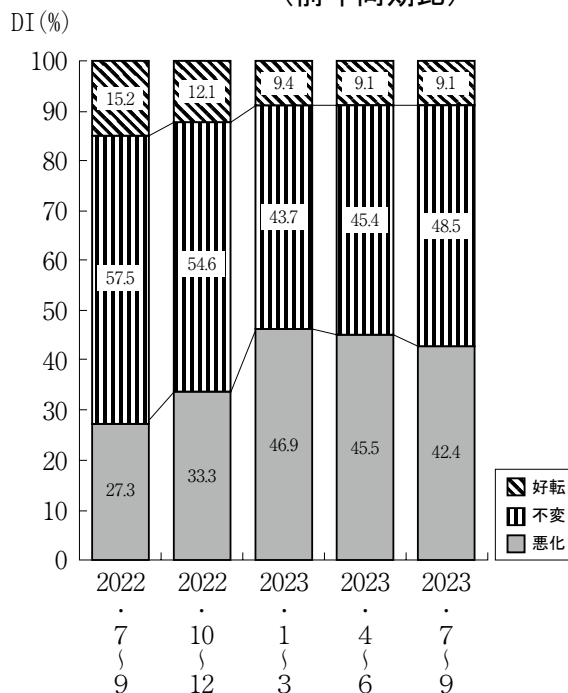


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の9.1%（前期9.1%）で横ばい、「悪化」と回答した企業は42.4%（前期45.5%）で3.1ポイント減少。

その結果、採算DIは△33.3（前期△36.4）で3.1ポイントの改善となった。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



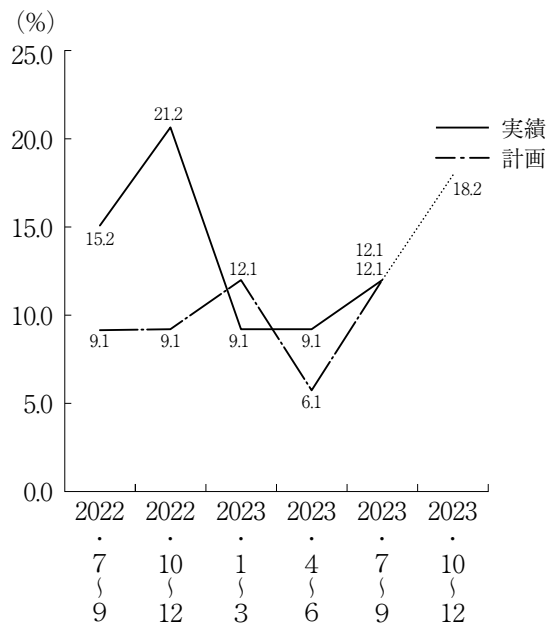
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の12.1%（前期9.1%）で、前期と比べて3.0ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の18.2%で、その設備内容は、生産設備、付帯設備となっている。

図1-4 設備投資の状況

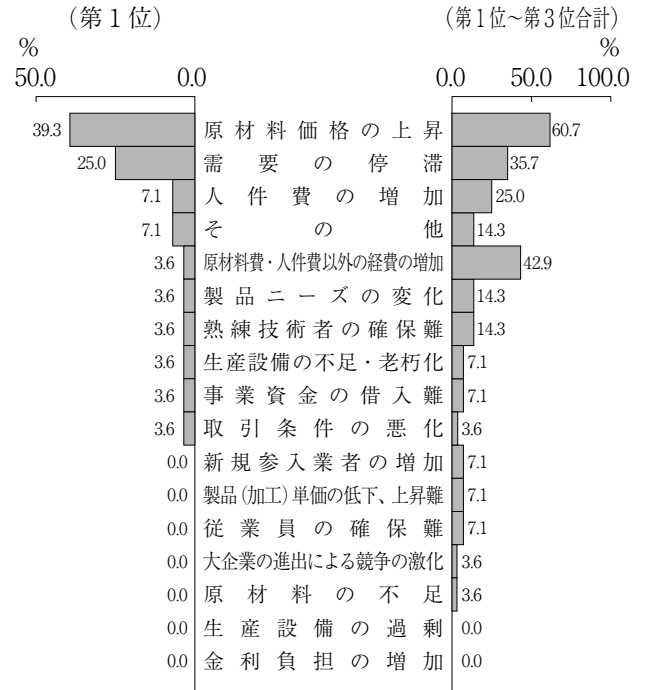


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」で39.3%、次いで「需要の停滞」が25.0%、「人件費の増加」「その他」が同率7.1%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「原材料価格の上昇」が60.7%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「原材料費・人件費以外の経費の増加」が42.9%、「需要の停滞」が35.7%、「人件費の増加」が25.0%、「製品ニーズの変化」「熟練技術者の確保難」「その他」が同率14.3%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



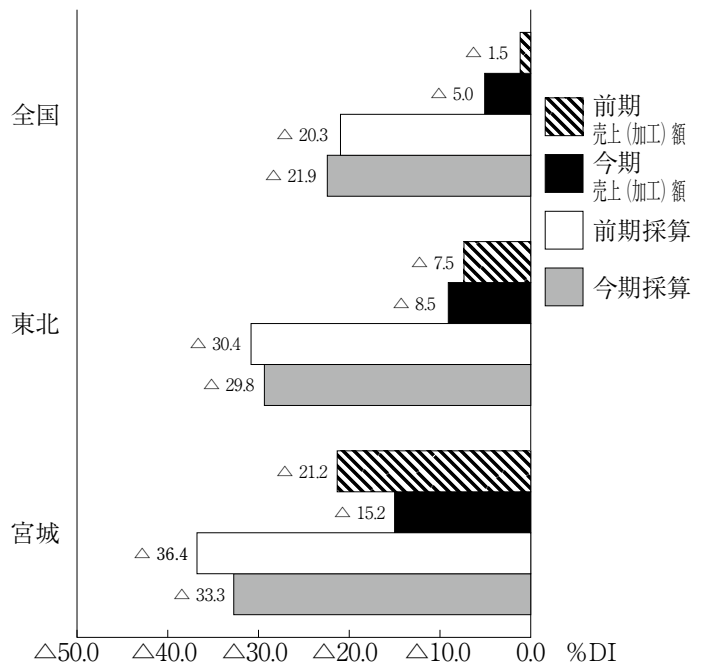
② 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上(加工)額DIは全国、東北で悪化、宮城は改善であった。

採算DIでは全国で悪化、東北、宮城で改善であった。

本県回答事業者からは「国内消費の拡大に期待」(酒類)、「コロナ規制緩和により着工件数が増加」(木製品)とする一方、「受注減少が続いている」(金属加工)、「輸出がなくなった」(水産食品加工)、「原材料費の更なる上昇」(食料品)、「物価高騰と賃上げが連動できていない」(繊維)などのコメントが寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)

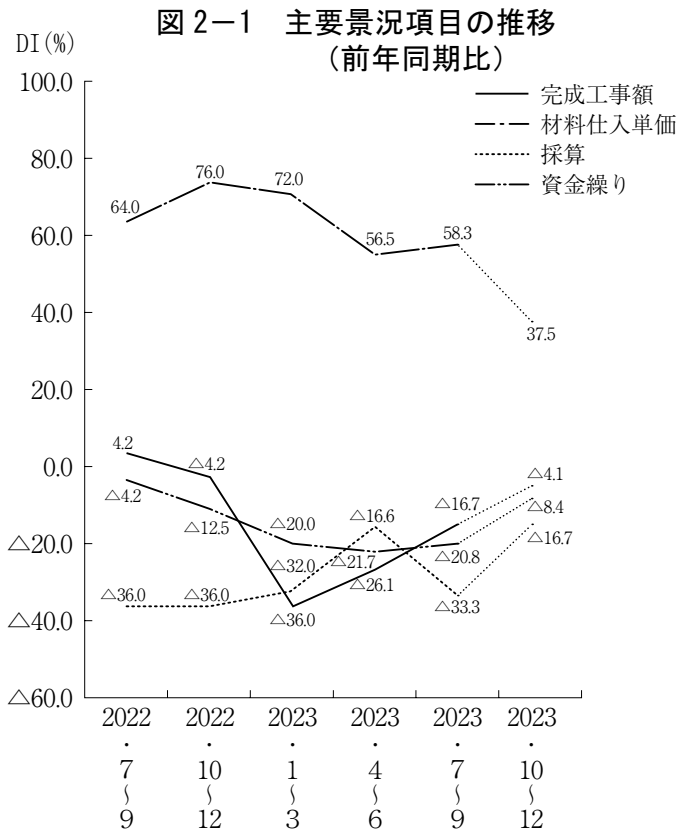


(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△16.7（前期△26.1）となり、前期比9.4ポイントの改善、採算D Iでは今期△33.3（前期△16.6）で△16.7ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△20.8（前期△21.7）となり、0.9ポイント改善した。

材料仕入単価D Iは今期 58.3（前期56.5）と1.8ポイントの上昇となった。



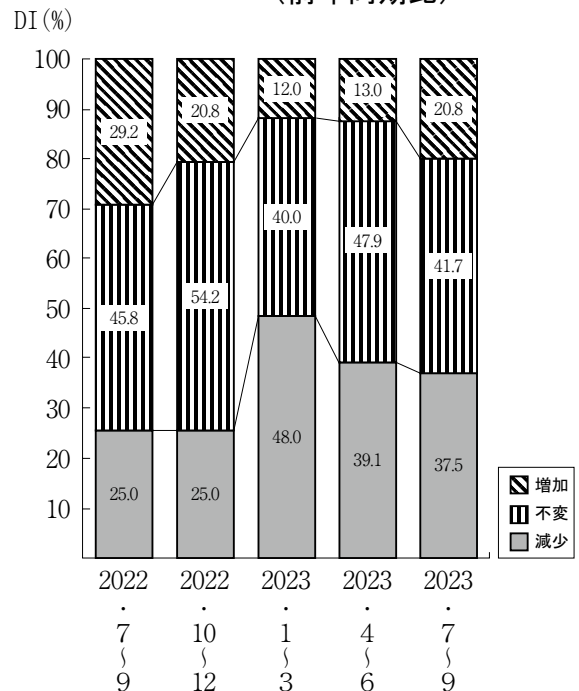
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の20.8%（前期13.0%）で7.8ポイント増加、「減少」と回答した企業は37.5%（前期39.1%）で1.6ポイント減少となった。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△16.7（前期△26.1）となり、前期比9.4ポイントの改善となった。

図 2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

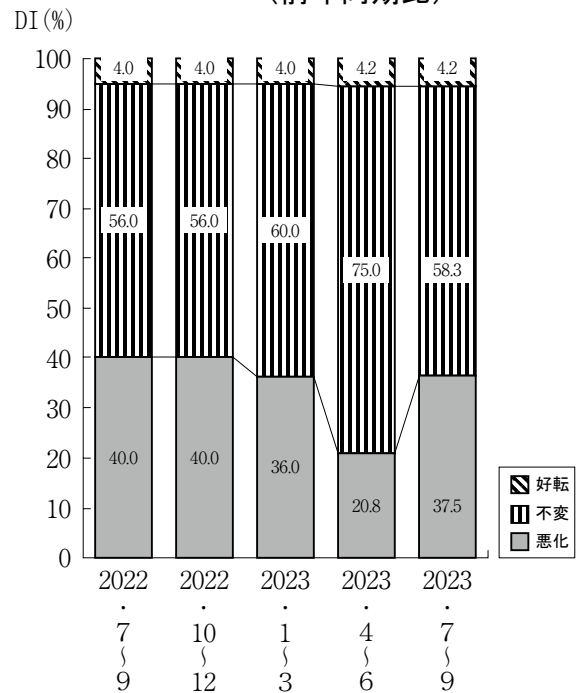


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の4.2%（前期4.2%）で横ばい、「悪化」と回答した企業は全体の37.5%（前期20.8%）となり16.7ポイント増加した。

その結果、採算DIは△33.3（前期△16.6）となり△16.7ポイントの悪化となった。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)



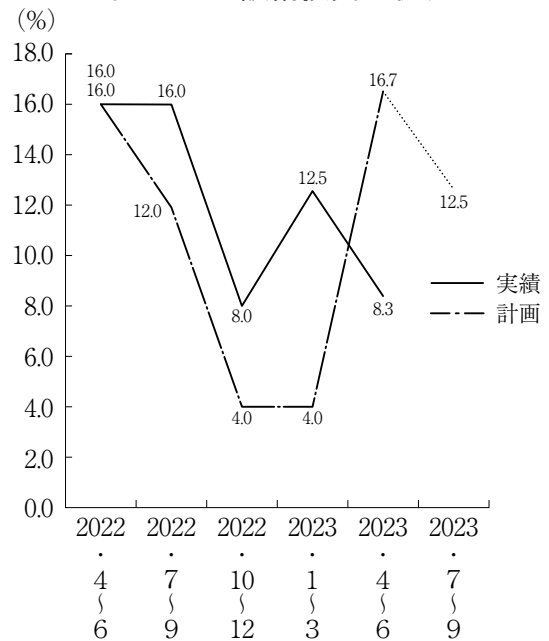
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の8.3%（前期12.5%）で前期と比べ4.2ポイント減少した。

その設備内容は、建設機械、車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の12.5%で、その設備内容は、建物、OA機器となっている。

図2-4 設備投資の状況

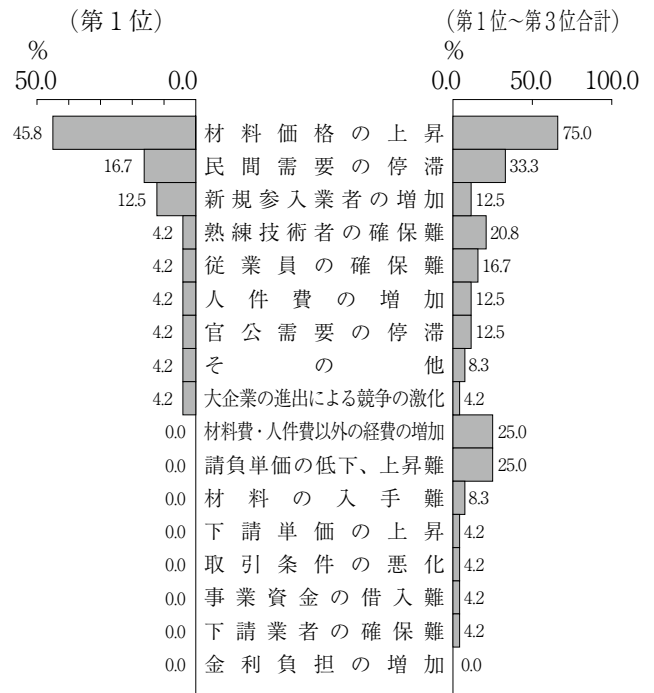


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」で45.8%、次いで「民間需要の停滞」16.7%、「新規参入業者の増加」12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」が75.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「民間需要の停滞」が33.3%、「材料費・人件費以外の経費の増加」「請負単価の低下、上昇難」が同率25.0%、「熟練技術者の確保難」20.8%、「従業員の確保難」16.7%、「新規参入業者の増加」「人件費の増加」「官公需要の停滞」が同率12.5%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



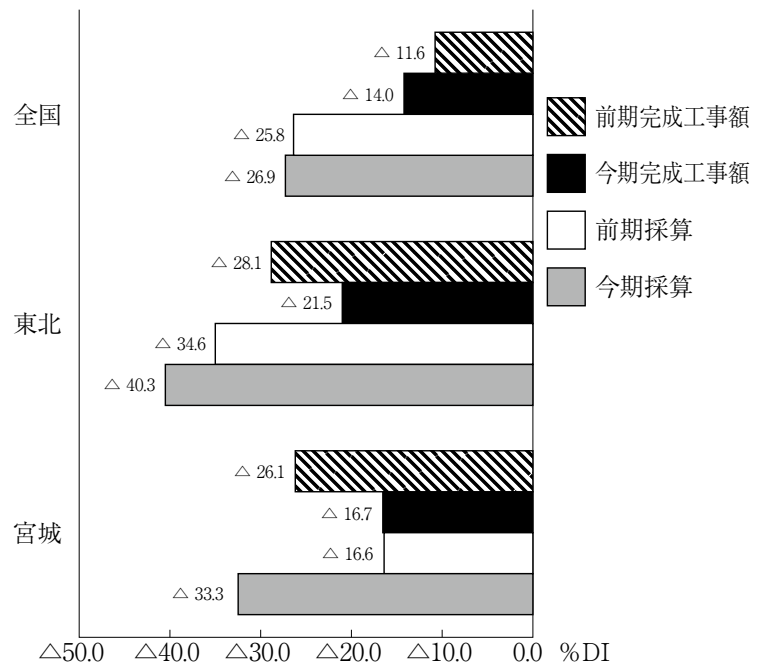
② 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額DIは全国で悪化、東北、宮城は改善であった。

採算DIの比較では全地域（全区分）で悪化となった。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「昨年から仕事量が減少している」（一般建築工事）、「未だに大変苦しい状況は変わらない」（土木建築）、「資材等の上昇」「人材確保のための人件費が高騰している」（建築リフォーム）などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）

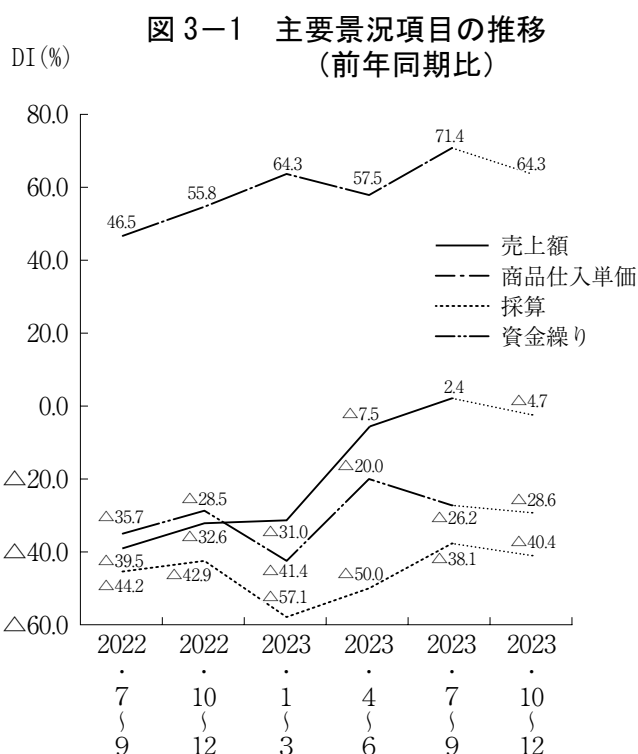


(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは今期2.4（前期△7.5）と前期より9.9ポイント改善、採算DIでは今期△38.1（前期△50.0）で11.9ポイント改善、資金繰りDIでは今期△26.2（前期△20.0）で△6.2ポイント悪化した。

商品仕入単価DIは今期71.4（前期57.5）となり、13.9ポイント上昇した。

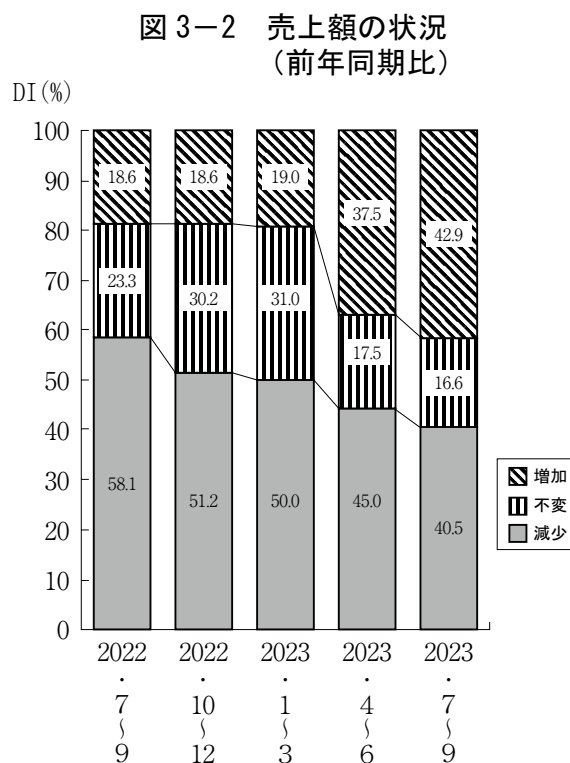


② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の42.9%（前期37.5%）で5.4ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の40.5%（前期45.0%）で4.5ポイント減少した。

その結果、売上額DIは今期2.4（前期△7.5）と前期より9.9ポイント改善した。

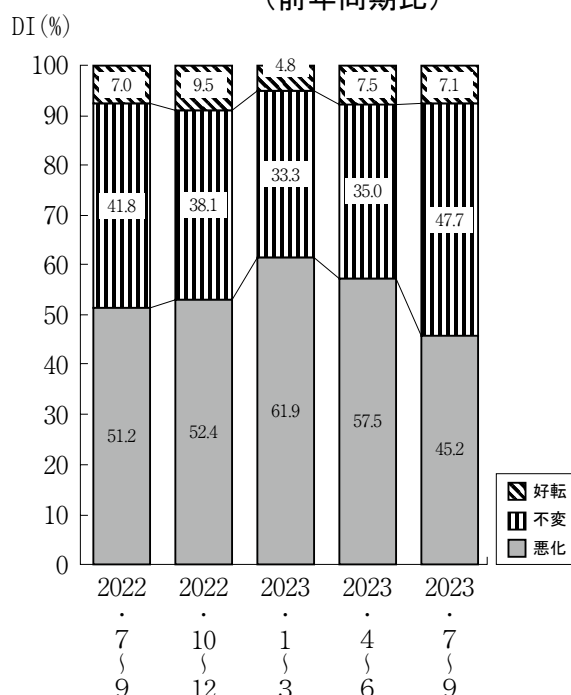


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の7.1%（前期7.5%）で0.4ポイント減少、「悪化」の回答は、今期は全体の45.2%（前期57.5%）で12.3ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△38.1（前期△50.0）で、前期より11.9ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



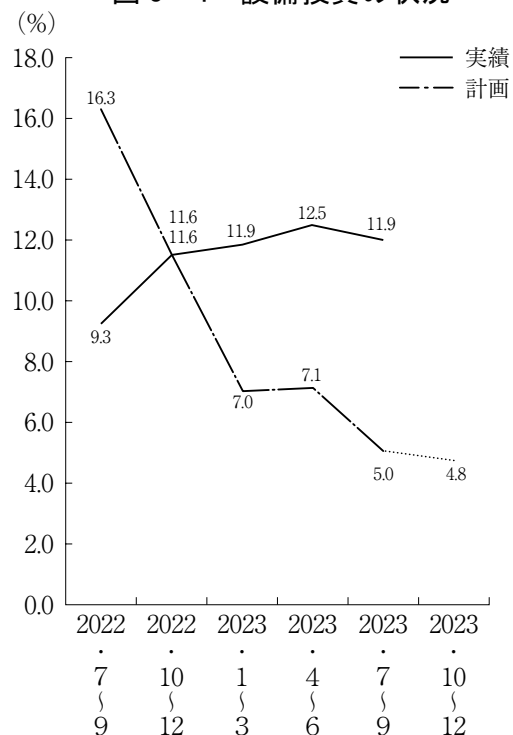
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の11.9%（前期12.5%）で前期比0.6ポイントの減少となった。

その設備内容は、店舗、販売設備、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の4.8%で、その設備内容は、土地、店舗、販売設備、付帯設備、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

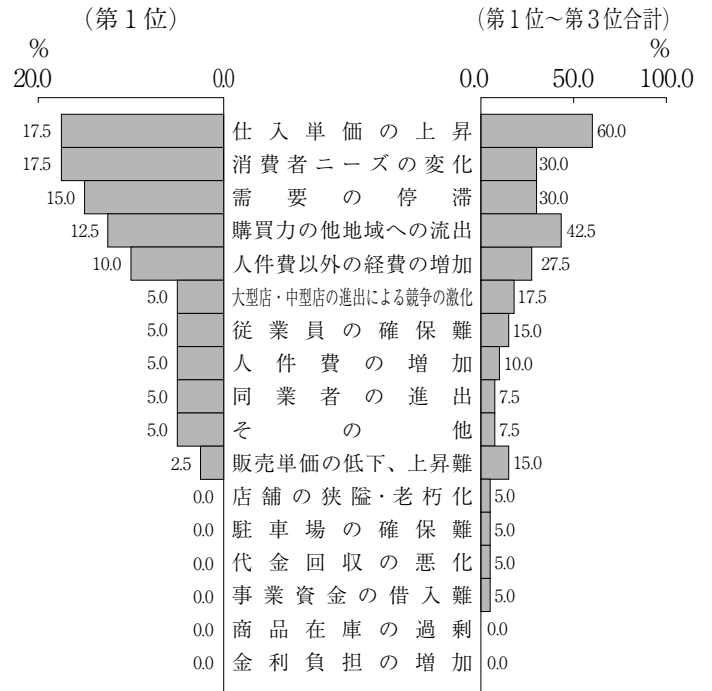


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「仕入単価の上昇」「消費者ニーズの変化」が同率で17.5%、次いで「需要の停滞」が15.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が60.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「購買力の他地域への流出」が42.5%、「消費者ニーズの変化」「需要の停滞」が同率30.0%、「人件費以外の経費の増加」が27.5%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が17.5%、「従業員の確保難」「販売単価の低下、上昇難」が同率15.0%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



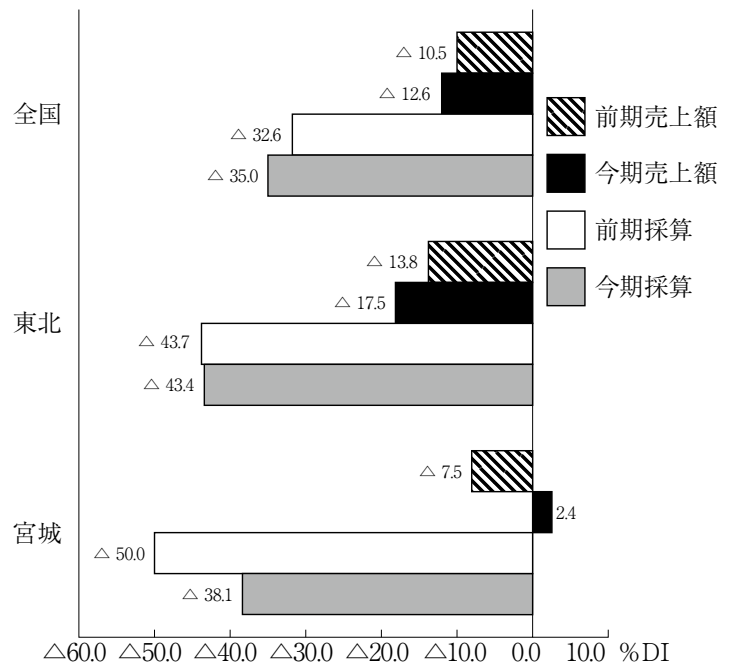
② 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上DIは全国、東北で悪化、宮城は改善であった。

採算DIの比較では全国で悪化、東北、宮城は改善であった。

本県回答事業所から「コロナの5類移行に伴い人の動きが出てきた」(身の回り品)、「各種催事の再開で売上は回復基調」(飲食料品)とする一方で、「従業員確保が困難」(飲食料品)、「生活スタイルや購入方法の変化への対応が必要」(書籍文房具)、「物価高等により業況はさらに厳しい」(飲食料品)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



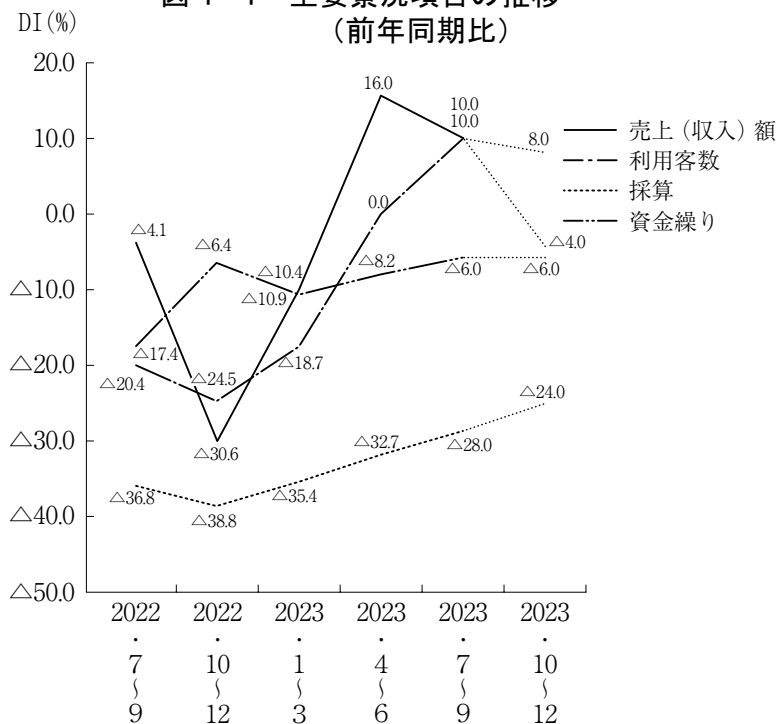
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額DIは今期10.0(前期16.0)で△6.0ポイント悪化、採算DIでは今期△28.0(前期△32.7)で4.7ポイント改善、資金繰りDIでは、今期△6.0(前期△8.2)で2.2ポイント改善した。

利用客数DIは、今期10.0(前期0.0)で10.0ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



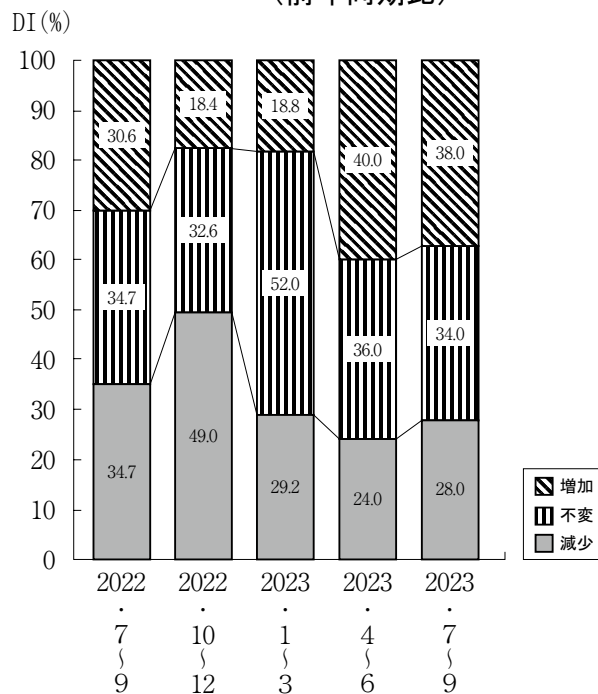
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(収入)額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の38.0%(前期40.0%)で前期より2.0ポイント減少、「減少」の回答は今期28.0%(前期24.0%)で4.0ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額DIは今期10.0(前期16.0)で、前期より△6.0ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

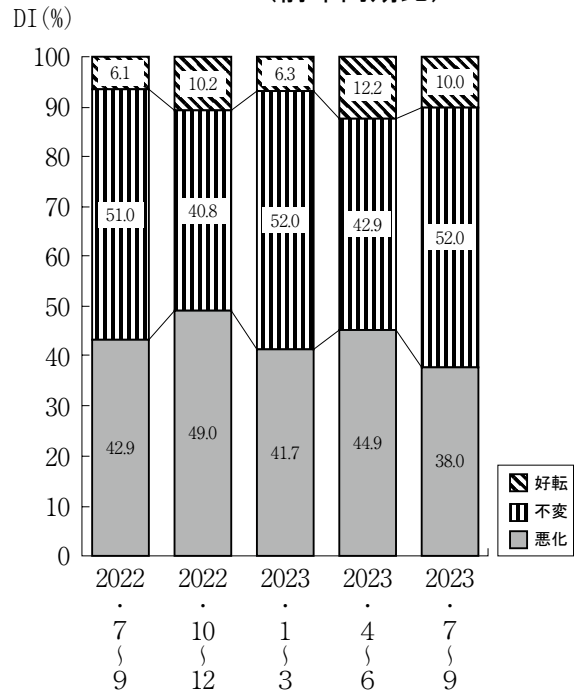


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の10.0%（前期12.2%）で2.2ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期38.0%（前期44.9%）と6.9ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△28.0（前期△32.7）で前期より4.7ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
（前年同期比）



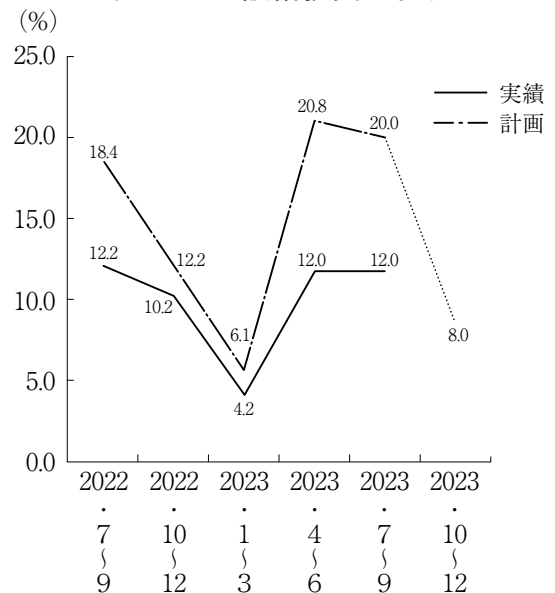
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の12.0%（前期12.0%）で、前期と比べて横ばいであった。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の8.0%で、その設備内容は、建物、サービス、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況

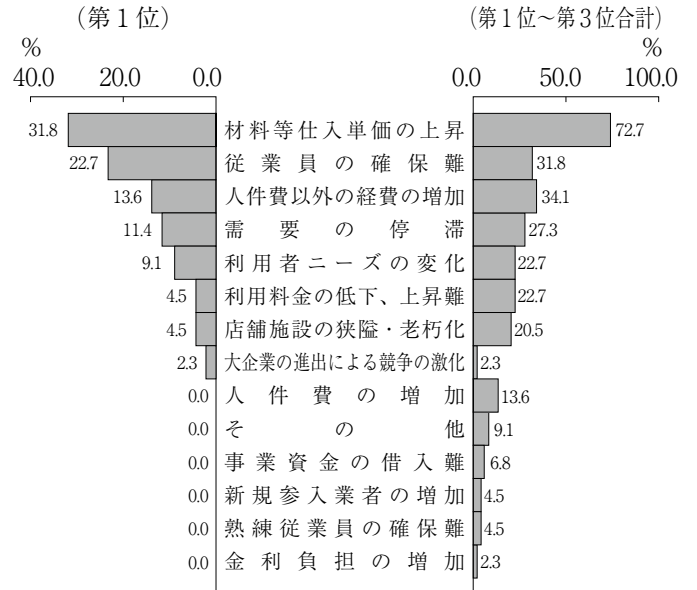


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が31.8%で、次いで「従業員の確保難」が22.7%、「人件費以外の経費の増加」が13.6%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が72.7%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」が34.1%、「従業員の確保難」が31.8%、「需要の停滞」が27.3%、「利用者ニーズの変化」「利用料金の低下、上昇難」が同率22.7%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が20.5%、「人件費の増加」が13.6%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



② 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上(収入)DIは全国、宮城で悪化、東北は改善であった。

採算DIの比較では全地域(全区分)で改善となった。その改善度は東北、宮城、全国の順であった。

本県回答事業所からは、「コロナ規制緩和により客足が戻った」(飲食店)、「お盆帰省や夏休み等ではコロナ前に戻った」(宿泊)とする一方、「今夏の異常気象の影響で客入りが減少」(理美容)、「異常気象と感染対策等で光熱費が増加」「材料費高騰による資金繰りに苦慮」(飲食店)、「人手不足」(宿泊)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

